

課 題	コウヨウザン植栽実証試験				開 発 期 間	平成 29 年度～令和 2 年度	
開 発 箇 所	茨城森林管理署 管内	担当 部署	森林技術・支援 センター	共同研究 機 関	森林総合研究所 林木育種センター	技術開発 目 標	①
現状と 問題点	近年の木材加工技術では、集成材の外側部分に強度の強い異等級を使うようになってきている。中側にスギを使用した場合は、外側をヒノキやカラマツ等を使用しているのが現状である。このことから、西日本ではスギ、ヒノキに代わる造林樹種の選択肢を広げることを目的に、材の強度がスギ以上であるうえ、初期成長が早く、材積成長量が大きい早生樹として、コウヨウザンの植栽試験が開始されている。 森林総合研究所林木育種センターでは、スギやヒノキ、カラマツ以外の造林樹種として、高強度・高成長を示すコウヨウザンの優良系統の選定と改良指針の策定を目的に研究を進めている。その中で、コウヨウザンは関東や北陸などでも十分生育することが明らかとなってきたが、優良個体は選抜中であり、育林技術も確立されていない。						
開 発 目 的	林木育種センターでは、日本各地のコウヨウザン植栽木から集めた種子や穂木を用いて、実生苗及びさし木苗のコンテナ等による育苗試験を実施している。これら多様な系統のコウヨウザン種苗を試験地に植栽し、系統評価を行い、優良個体の選抜を実施して、関東地方に適応する系統を解明する。また、木材利用に向けて、植栽密度、下刈期間、主伐期齢、強度等を検証し、育林技術の確立を図る。						
開 発 方 法	① 平成 29 年度植栽予定（系統評価試験地、下記の系統数は見込み） コンテナ（300cc） 実生 1 年生苗 14 系統 コンテナ（300cc） さし木 1 年生苗 5 系統 実生 1 年生裸苗 8 系統 さし木 2 年生裸苗 3 系統 植栽密度は 1,500 本/ha、試験木 10 ブロック、合計 約 800 本植栽 周囲木 約 400 本植栽 計 約 1,200 本植栽予定（植栽面積 0.81ha） ② 平成 30 年度植栽予定（密度試験地） 実生 2 年生裸苗 3 通りの植栽密度試験地を設ける。 ③ 活着、成長（樹高・地際径）調査を毎年実施する。 ④ 下刈回数の軽減を検証する。 上記の調査データを統計的な手法を用いて分析し、コウヨウザンの特性を解明する。						
年度別 計 画	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度			
	1 系統評価試験地設計 2 環境条件把握等 3 苗木の植付け 4 活着及び成長調査	1 密度試験地設計 2 環境条件把握等 3 苗木の植付け 4 活着及び成長調査 5 下刈（注） （注）：下刈は必要に応じて適切に行う。	1 成長調査 2 下刈（注） （注）：下刈は必要に応じて適切に行う。	1 完了報告書の作成			
（経費）	—	—	—				
（技術開発委員会における意見）							